

営 農 情 報

平成31年4月19日

育苗管理について（本葉1.5葉～）

○生育時期に応じた温度・水管理の目安

生育時期		本葉1.5葉～3.0葉	本葉3.0葉～移植
管理目標		苗の徒長防止	苗質の充実強化
管理の目標要点		高低温・過湿・過乾を避け、十分な換気で徒長を防ぐ。	適切に灌水し、外気温に充分ならず。
温度管理	基準	18℃～20℃	18℃～外気温
	目安	20℃以上や晴天時は換気	外気温と同じく
	方法	晴天時は早朝から肩・裾換気を行い、肩は早めに閉めましょう。	昼夜とも肩・裾を大きく開放しましょう。又、晩霜に十分に注意して下さい。
灌水	基準	晴天日などに与えた水が蒸発する条件下で行う。	
	目安	①早朝、葉先に水滴の付き方が少なくなった時。 ②日中、葉身の展開が悪くなった時。	
	方法	①灌水が必要な時は、一度たっぷり与え、床土全体に浸透したところを確認しましょう。 ②灌水は早朝に行うが、特に気温の低い時の灌水は避けましょう。	
注意事項	2.5葉期以降、25℃以上の高温に遭遇すると早期異常出穂の原因となります。特に大型ハウスでは換気を行ってもハウス内の温度が下がらないので打ち水程度に灌水を行い、温度の管理を行いましょう。		

○移植時の苗形質目標

育苗様式	成 苗	中 苗
草 丈	10～13cm	10～12cm
乾 物 重	3.0～4.5g/100本	2.0g以上/100本
目 標 葉 数	きらら397 : 3.6～4.4葉以内	3.1～3.8葉以内
	ゆめぴりか : 3.6～4.3葉以内	
	ななつぼし : 3.6～4.0葉以内	

水稻圃場の施肥について

○土質に応じた施肥基準

土 質	低地土	台地土	泥炭土
N施肥基準	8.5kg/10a	8.5kg/10a	7.0kg/10a

- ・施肥にあたっては、側条での窒素施用量4kg/10aを目標とし、初期生育確保に努めましょう。
- ・左表を参考に土質に合わせ過剰施肥とならないように調整して下さい。尚、左表の施肥基準は側条施肥との合計になります。

○側条銘柄の選定について

銘 柄	成 分 量			10a施用量	10a当たりの投下量		
	N	P	K		N	P	K
444	14%	14%	14%	30kg/10a	4.2	4.2	4.2
806	18%	10%	6%	23kg/10a	4.1	2.3	1.4
875	18%	7%	5%	23kg/10a	4.1	1.6	1.2
023	20%	12%	3%	20kg/10a	4.0	2.4	0.6
せひラク BB3413	34%	13%	0%	12kg/10a	4.1	1.6	0.0

秋まき小麦幼穂形成期以降の分肥について

本年、秋まき小麦の幼穂形成期は5月2日頃に迎える見込みです。
2回目の分肥については幼穂形成期から5～7日後に実施しましょう。また、分肥量については下記表を参考に施用して下さい。

○秋まき小麦幼穂形成期の茎数別分肥施用量

茎数 (本/㎡)	窒素追肥量 (kg/10a)	
	きたほなみ	ゆめちから
600本未満	4～6kg/10a	4～6kg/10a
800本～1,300本	2～4kg/10a	
1,500本以上		

秋まき小麦の防除について

小麦連作圃場では眼紋病の発生が危惧されます。幼穂形成期から節間伸長期前半に適期を逃すことなく防除を実施しましょう。

○眼紋病に効果のある薬剤

薬 剤 名	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)	備 考
ユニックス顆粒水和剤	幼穂形成期	500～700倍	100～150	連作圃場では必ず散布する。
カンタスドライフロアブル		1500倍	60～150	

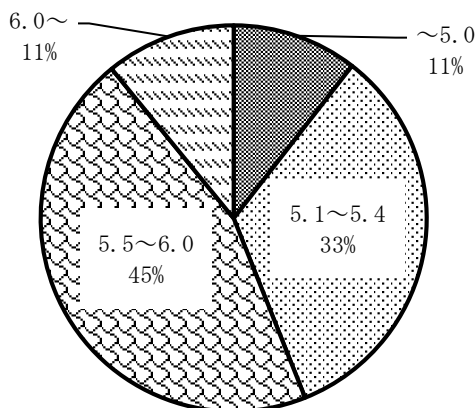
秋まき小麦の除草剤散布について

除 草 剤 名	使用回数	使 用 時 期	10a当たり施用量	備 考
エコパートフロアブル	2回	・広葉雑草2～4葉期 ・小麦止葉抽出前まで ・収穫45日前まで	50～75ml	高温時の散布は避ける
MCPソーダ塩	1回	・幼穂形成期 ・収穫45日前まで	200～300g	平均気温10℃以下効果減少
バサグラン液剤	1回	・小麦生育期 ・雑草3～6葉期 ・収穫45日前まで	100～200ml	—
ハーモニー75DF水和剤	1回	・幼穂形成期 ・収穫45日前まで	7.5～10g ※3～5g	他薬剤混用×

※ギンギン類のみ登録あり

大豆作付圃場の圃場準備について

大豆作付圃場 pH集計 (257点)



管内大豆圃場の約4割が低pHです！

粒状生石灰を施用し、改善しましょう！！

○粒状生石灰施用量〈目標5.5〉作土:20cm 単位:kg

pH	5.4	5.3	5.2	5.1	5.0	4.9
必要量	66	132	198	264	330	396
施用1回目	66	100	100	100	100	100
施用2回目	0	32	98	100	100	100
施用3回目	0	0	0	64	100	100

※必要量が多い場合は複数年に分けて改善しましょう。